

「信仰の人ダビデ」
ダビデの生涯Ⅱ
サムエル記第一 17章 20節～50節

はじめに

今朝は、ダビデの生涯の2回目です。初代のサウル王が神への不従順で失脚した後、神はエッサイの子ダビデをお選びになりました。さて、今回は、神がなぜダビデをお選びになったかが明らかになります。それは、ダビデの神への信仰でした。

当時、イスラエルはペリシテの攻撃にさらされていました。この時も、山のこちらと向こうに両軍が陣取り、にらみ合っていました。ペリシテ軍から巨人兵士が出てきて、一対一の挑戦を挑み、負けた方が相手にくたるという提案をしてきました。この挑戦にイスラエルはおびえませんでした。そのとき、父の言いつけで兄たちの見舞いに来たダビデは、この挑戦を受けて立ち、ゴリアテを倒してイスラエルに勝利をもたらしました。この出来事は、ダビデが「信仰の人」であったことを伝えています。

1 獅子や、熊の爪から私を救い出してくださった主。

(1) 信仰の体験 (34-37)。

ダビデの信仰は、どこで養われたのでしょうか。それは、羊を飼う中です。ダビデの書いた詩篇の中で、最も有名で、親しまれてきたのは、23篇です。この詩は、ダビデが羊を飼う中で、神を知り、神に信頼して生きるようになったことを語っています。

いまここで、ダビデは、羊を飼っているときに、獅子や熊が襲って来たとき、それを打ち殺して、羊を救った経験から、「獅子や、熊の爪から私を救い出してくださった主は、あのペリシテ人の手からも私を救い出してくださいませ」(37)との信仰を立つことができたのです。

適用：私たちは、どこで信仰を自分のものとするのでしょうか。聖書を読み、教会でみことばを聞きますが、そのみことばによって神様を体験するのは、日々の生活です。そこでいろいろなことを通して、神様を信頼することを学び、信じることによって、助けられ、救われることを経験するのです。

(2) 慣れていないものによってではなく (38-39)。

サウルは、ダビデに自分のよろい、かぶと、剣を与えましたが、ダビデは「慣れていないから」とそれを断りました。

適用：私たちは、借り物の信仰ではいけません。あれがない、これがないと
いって、自分にないことに不満を言いますが、他人のもので戦うことは
出来ません。自分のもので戦うしかないし、それが最上の武器なのです。

例話：自分の頭、自分の能力、自分の家族など、いま自分に与えられている
ものを用いて、困難と戦うのです。

2 主の戦い。

(1) 万軍の主の御名によって戦う (45)。

ダビデは「私は、おまえがなぶったイスラエルの神、万軍の主の御名
によって、お前に立ち向かうのだ」と言いました (45)。ダビデは、神
の勝利を信じていました。それは「この戦いは主の戦いだ」 (47) のこ
とばにはっきり示されています。

ゴリヤテは、身長 286 センチ、頭には青銅のかぶとをかぶり、鱗綴じの
よろいを身に着けていました。胸当ての重さは青銅で 57 キロ、足には青
銅のすねあてをつけ、大きな槍を持っていました (17:4-6)。ダビデは、こ
のゴリヤテと戦ったのです。無謀に見えます。でも、ダビデは主を信じ
ていたのです。

ダビデはゴリアテに言いました。「お前は剣と槍と投げ槍をもって私
に向かって来るが、私はお前がそしたイスラエルの戦陣の神、万軍の
主の御名によって、お前に立ち向かう。この戦いは主の戦いだ。」と言
いました (45-47)。

(2) 石投げと一つの石で (50)。

ダビデの武器は、「石投げと一つの石」でした。日頃から使い慣れ
ていた武器でダビデは見事にゴリヤテの額に石を打ち込み倒したので
す。

そのような武器で倒せるはずはないそう考えるのが当たり前です。
しかし、ダビデは、倒せると信じていました。それは、主の助けを信
じていたからです。

結論

今朝は、ダビデの信仰を学びました。ダビデが王として神に選ばれたのは、その信仰にありました。その信仰は、神を信じる者にとって、何者をも恐れる必要がないという信仰です。ダビデだから出来たと、いうのではなく、この話が聖書にあるのは、私たちのためです。私たちも、主を信じる者として、ダビデのような純粋な信仰を求められているのです。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があります。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」